

# 特色を活かした サービス提供について

当院における  
短時間通所リハビリテーションの現状

ゆきよしクリニック

○中川由子(OT)

高野友美(OT) 清水美穂(OT)

加藤拓(PT) 石栗千秋(SW)

# 通所リハビリテーションとは

居宅要介護者について、介護老人保健施設、病院、診療所に通わせ、その施設において、その心身の機能の維持回復を図り、日常生活の自立を助けるために行われる理学療法、作業療法その他必要なリハビリテーションを行うことをいう。

心身の機能の維持回復を図るためのリハビリテーションを行うことに重点が置かれている。

[介護支援専門員基本テキスト第2巻181～182頁]

# 通所リハビリテーションの目的

- ・身体機能の維持・回復
- ・認知高齢者の認知症症状の軽減と落ち着きある日常生活の回復
- ・ADLの維持, 回復
- ・IADLの維持, 回復
- ・コミュニケーション能力または社会関係能力の維持・回復

[介護支援専門員基本テキスト第2巻182～184頁]

当院の  
短時間通所リハビリテーション  
(以下通りハ)について

# 概要

## 利用状況

利用者数：登録者77名 現利用者75名

1日 定員20名

提供時間：1時間～2時間未満

男女比：3:2 男性が多い

年代：50～90歳代 80代が多い

送迎範囲：江南区，秋葉区の一部

東区の一部，中央区の一部

## スタッフ人数

相談員：1名 ケアスタッフ：5名


PT：1名 OT：3名 (1日3人体制)

# 当院の通りハの流れ

## <前日>

- ①送迎時間の電話. ファイルや訓練カードの準備

## <当日>

- ①ケアスタッフミーティング, お茶や用具の準備
  - ②バイタルチェック, 連絡ノートの記事
  - ③個別リハビリ(20分), 物理療法, 体操
  - ④送迎
  - ⑤後片付け,
  - ⑥ケアスタッフミーティング, 他職種との連絡調整
- 

利用者様のニーズを全職員が把握し、ニーズに沿ったプログラムの実施、自信につながる活動の場の提供・関わりが自主性を引き出すことに繋がった。

# 【事例紹介】

A様 69歳 女性

【診断名】: 両先天性股関節脱臼(H1)  
右変形性膝関節症(H9)  
不整脈・心房細動(H16)

## 【社会的背景】

長男様との二人暮らし。友人との交流は少ないが、近くに親戚が住んでおり、交流がある。

買い物は近くのスーパーに一人で休みながら行くことが可能。



# ①利用開始時

【訴え】右足首が痛い。

## 【身体機能】

- ・両先天性股関節脱臼により、X脚。右足関節内側にストレスかかり、痛みあり。
- ・両足部～下腿にかけて浮腫著明。

## 【精神機能】

- ・人との関わりに対しては消極的。
- ・物理療法の順序にこだわる様子あり。
- ・振替利用を希望されることは少なかった。

リハスタッフ: 評価を実施し、本人の希望を確認し、プログラムを作成。

(目標: 痛み・むくみの軽減)

ケアスタッフ: 本人の希望の順で、物理療法への誘導・セッティング。

相談員: 通りハのサービス状況の確認・CMへの報告、プログラム内容の確認・変更、振替利用時の連絡、ケアスタッフと同様の関わり。

## ②変化のきっかけ

### 【階段昇降練習の希望あり】

カンファレンス時に、A様より階段昇降練習のご希望あり。

※カンファレンスへの参加は相談員のみ。

相談員：ご本人様の希望を担当リハスタッフへ報告。

リハスタッフ：階段昇降を行いたい理由（バスに乗りたい）を確認し、  
相談員・ケアスタッフに報告。

身体機能を確認し、プログラムに追加。

ケアスタッフ：階段昇降練習の見守り、声かけ。

## 【作品展示会への出展】

- ・作品展示会のご案内時 「私はそういうのはあまり・・・。」
- ・次の利用時  
「20年前に入院中に作ったぬいぐるみがあるけど・・・。飾るほどのものではないので。」
- ・作品を預かるとき 「私のは一番後ろに飾ってください」
- ・作品展示会后  
参加証明書や写真を見せると「これはもらえたりしないですよね・・・。」  
写真はお渡しできるとお伝えすると「お金を払うのでください」

リハスタッフ: 展示会の案内、出展前後での精神面への関わり、  
写真・参加証明書の作成、お渡しする  
相談員・ケアスタッフ: 作品に対しての感想・声かけ

## ③現在

【訴え】長く歩けるようになりたい。

### 【身体機能】

- ・右足関節内側の痛みは継続。
- ・両足部～下腿にかけての浮腫軽減。

### 【精神機能】

- ・利用時の表情は明るく、他者とも積極的に関わる。
- ・物理療法の順序へのこだわりを示さなくなった。
- ・ご自身で実際にバスに乗る計画を立てて実行！そして、成功！  
その後「電車は乗れるでしょうかね」と次の目標を見つける。  
12月中旬には、ご自身で電車に乗る計画を立てている。
- ・利用ができない時は、自ら振替を希望される。

# 今後の課題と対策

## 【現状】

- ケアスタッフは物理療法のセッティング，書類の受渡，送迎等で手一杯になることがあり傾聴の時間が十分に取れないことがある。
- リハスタッフは個別リハビリを実施する人数が多く，評価を実施した時など提供時間を過ぎてしまうことがある。

【課題】利用中の時間の確保が不十分

【対策】職員の増員(現在Nrsからも協力を得ている)

## 【現状】

- 利用者様の情報・状況をスタッフ全員が把握しきれていない。
- リハスタッフはミーティングに参加できてない。
- ケアスタッフはノートに記録・情報を記入しているがリハスタッフは毎日確認できていない。
- リハスタッフは毎日カルテ記入ができていない

【課題】利用後の時間の確保が不十分のため、  
記録、情報の交換・確認が行いにくい。

【対策】リハスタッフの記録を徹底する  
スタッフ全員揃ったミーティング時間の確保